

## 四季ごよみ

春の草花のタネまきの季節が  
やってきました

ミスター・シード



厳しい暑さが少しずつ和らぎ、園内にも秋の気配が感じられるようになってきました。9月は、春に咲く草花のタネまきに適した季節です。

緑化センターでも、パンジーやキンセンカ、ネモフィラなど、春の花壇を彩る草花の準備が始まります。

春の花壇を彩る草花の多くは、秋にタネをまいて冬の寒さを乗り越えて、翌春に色とりどりの花を咲かせます。秋にタネをまき、育苗し、年内に植えつけることで、丈夫な株に育ちます。

来春の花壇を想像しながら、秋のタネまきに挑戦しませんか？

“ヒガンバナが咲くころ”がタネまきの適期です。

日中は気温が高い日も多く、タネまき直後は、半日陰に置いて、発芽までは土を乾かさないことが大切です。発芽してもしばらくは、西日など強い日差しは避け、朝や夕方方の涼しい時間帯に、表面の土の様子を見ながら水やりをしましょう。



緑化センターのヒガンバナ  
(2025.9.25)

緑化センターでは自家採取したタネも育てています

緑化センターでは、セリンセ(ムラサキ科)、ビスカリア(ナデシコ科)、フロックス(ハナシノブ科)、クロタネソウ(キンポウゲ科)など、自家採取したタネもまいています。

ホームセンターや花屋さんで、あまり見かけない草花もタネから育て、多様な草花の魅力を皆さんにお届けしたいと思っています。

写真：平皿にまいたタネなどタネまきの様子



タネまき  
(2025.9.20)



発芽  
(2025.9.26)



タネまきから20日後  
(2025.10.10)



ポット上げ  
(2025.10.15)

秋は実りの季節

園内では、夏から秋へと移り変わる植物の姿も観察できます。風に運ばれるタネ、鳥に運ばれる実、熟すとはじけて飛び出すタネ、植物たちはそれぞれの方法で次の世代へ命をつなぎます。園内を散策して、そんな植物たちの知恵を探してみませんか？

風に乗って



モミジ

転がって



フウセンカズラ

鳥に運ばれて



クヌギの実



イイギリの実



## 秋の七草を探そう！

園内では、季節の移ろいを感じさせる秋の草花、ススキやハギ、オミナエシなどが見頃を迎えています。これらは「秋の七草」と呼ばれ、「万葉集」にも詠まれるなど、古くから人々に親しまれてきた植物です。

秋の七草は、春の七草のように食べる植物ではなく、花や草姿を楽しむ植物です。ハギのやさしい花色や、風に揺れるススキの穂は、日本の秋を代表する美しい風景のひとつです。



キキョウ



ハギ



ナadeshiko



ススキ



フジバカマ



オミナエシ



クズ

花が咲いている時期、花が終わった後の姿、風に揺れる穂、実をつけた姿……。季節の移り変わりとともに姿を変える植物にも目を向けてみると、秋の七草をもっと身近に感じられるかもしれません。

### ハギのトンネル

緑化センターには、ピンク色のハギが咲く「はぎのトンネル」があります。枝いっぱい咲く小さな花がやさしく迎えてくれる、秋ならではの風情あるスポットです。散策しながら、日本の秋の風景を楽しんでみませんか？

#### 編集後記

秋の七草はどうして「七草」なのでしょう。そのルーツは奈良時代の万葉集にありました。歌人・山上憶良が秋の野に咲く花を眺めながら「秋の野に咲きたる花を指折りかき数ふれば七種の花」と詠んだ歌が秋の七草の始まりです。

何気ない野の花に目を留め、名前を知り、昔の人はよく見ていたなあと感じました。

昔の人が見つけた七草を探すのも楽しいけれど、自分が「秋だなあ」と感じた草花を選んでみることも楽しそうですね。(K.K)



文 丸山美夏（緑化センター緑の相談員）

